

【数字を読み解く】11.8%

～20年度大分県の家電大型専門店販売額伸び率 コロナ禍 変わる消費行動～
＜2021/6/4 大分合同新聞掲載＞

数字は、経済産業省が毎月公表する「商業動態統計」にある、2020年度中の大分県における家電大型専門店販売額の前年比伸び率だ。

同統計は、全国の商業を営む事業所および企業の販売活動などの動向を明らかにする目的で、1953年に始まった。現在は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターごとの商品別販売額や都道府県別の販売額、前年比などのデータが公表されている。

大分県における20年度中の家電大型専門店（対象は33店舗）の販売額は計338億円で、前年比プラス11.8%増加した。19年度（同プラス1.2%）を大きく上回る伸び率だ。月ごとの動きをみると、5月以降、総じて前年比プラス1～3割程度の高い伸びが続いていることが特徴。

家電大型専門店からは「新型コロナウイルスの拡大に伴う在宅時間の増加を受け、住環境を充実させる動きがみられ、テレビや白物家電の売れ行きが良い」「テレワーク、オンライン授業の普及を背景に、パソコンやプリンターの販売が増加している」といった声が聞かれる。旅行や外食から家電への需要シフトが起きたという指摘もある。

コロナ禍で個人の消費行動は大きく変化しており、財（もの）やサービスの品目ごとに強弱がみられる。今後も、新型コロナウイルスの動向と、それが個人の消費マインドに与える影響を意識しつつ、個人消費の動向を注意深く見ていきたい。（日本銀行大分支店）